

インフラツーリズムの魅力に関する考察

徳島県土地開発公社 フェロー 武市修一 徳島県庁 正会員 〇ーノ宮哲也

1. はじめに

徳島県では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた地域経済や住民生活を支援するため、県民に対し県内にあるインフラ（公共施設等）の魅力を再認識していただき、更には地元の宿泊施設や飲食店等を利用することで経済活動に寄与することを目的とした「とくしまの魅力発見！県内インフラツーリズム事業」を企画した。インフラは、地域固有の財産であり、普段目にすることはあっても建設中の工事現場や監査路などといったバックヤードに入る機会はありません。県民が地元のインフラに触れるきっかけとし、徳島を支えるインフラへの理解を深めるとともに、継続的な地域振興と誘客拡大を目指す一助としたいと考えた。本考察は、インフラを県民に理解していただく契機にするための手法や課題について、分析を行った。

2. ツアーの内容

徳島県内を東部・南部・西部の3コースに分け、それぞれ1泊2日の旅程とした。また、コロナ禍であるため、各コースの参加者を20名ずつの少人数とし、「新型コロナウイルス対応ガイドライン」を踏まえた感染拡大防止の取組みを実践した。ツアーの行き先は、土木史的価値がある現在施工中のものから明治時代のものでの公共施設等を中心に行程を組み、講師としてダムマニアの宮島咲氏、徳島の橋を語る会の田中氏を迎え、啓発と刺激を与えて頂けるツアーとした。

3. 本考察の内容

ツアー参加者の計60名にアンケートを実施し、その分析を中心に行った。アンケート項目から、①ツアーの行き先の評価、②ツアーの魅力分析、③ツアーの工夫・検討、④コロナ禍での対応、⑤今後の対策について考察した。

参加者の構成は表-1のとおりである。女性が多く、グループでの参加が多く見られた。また、中高年に人気となっている。ツアー開催を土日を設定したが、ツアーの内容から、女性や中高年において魅力を感じたのかもしれない。あわせてコロナ禍の時期でもあり、若年層はツアーに参加しにくい環境や内容であったのかもしれないが、今後の課題である。

表-1 ツアーの参加者

	60代未満	60代	70代	80代	合計人
男性	2	4	6	3	15
女性	8	18	19	0	45
合計	10	22	25	3	60

4. ツアーの行き先の評価

ツアーの行き先の評価は表-2のとおりである。20票が満票であり、各コース上位5箇所を示している。クルーズ船を使った吉野川とその橋梁群、新町川公園等の自然と都市景観、吉野川最河口部の橋梁架橋現場、線路と道路の両方を走ることができる世界初のDMV、改造後初めての放流となる長安ロダム、世界初の工法でfib（国際コンクリート連合）の最優秀賞を受賞した青雲橋等が上位を占めている。これは歴史的土木構造物である土木遺産とともに、普段我々が目にできない施設・景色や「初めて」という言葉が魅力と感じていることが分かる。

また、旅行の満足度について、満足36名（60%）、参加して良かった24名（40%）と回答を得た。「普段の生活であまり気に留めなかったことに触れて良い経験になった」、「近場ではあったが、旅行気分を味わえた」等の意見をいただいている。

表-2 ツアー行き先の評価

圏域	良かったところ	全数20
東部圏域	ひょうたん島クルーズ	18
	吉野川大橋	18
	大鳴門橋ウォーク	14
	阿波しらさぎ大橋	10
	大川原ウインドファーム	7
南部圏域	阿佐海岸鉄道（DMV）	20
	長安ロダム	19
	福井ダム	17
	川口ダム	14
	那賀川築堤	11
西部圏域	青雲橋	18
	池田ダム	15
	かずら橋	13
	池田へそっ湖大橋	10
	岩津橋	9

5. ツアーの魅力分析

ツアーの印象に残ったところを、複数回答により得た結果を図－1に示す。「通常入れない現場」が1位であり、「現地の説明」や「バス内の説明内容」が多くの方の印象に残っている。この他「建造物の意匠・美観」や「土木のスケール感」、「自然や環境の素晴らしさ」や「地域の歴史」と続いている。また、1泊2日のコースであり、夕食やホテルの項目が高くなっている。このことから、インフラツーリズムにおいては現場の設定、説明者の選定が重要であるとともに、ホテルや夕食等の観光の視点も忘れてはならない要素であることが分かる。分析に基づき、通常入れない現場や「初めて」の工夫、自然環境、地域の歴史などを踏まえ、ツアーを実施することが重要であると思慮する。

6. ツアーの工夫・検討

今回のツアーでは、説明者をダムマニアで有名な宮島氏、徳島の橋を語る会の田中氏にお願いしている。高度な知識と経験に基づきながら、一般の方にも分かりやすく説明されたことが図－1の評価につながっており、ここに説明者の重要性が見られると思う。知識や情報を単に伝えるのみならず、教えながら参加者の興味を喚起し、大きな経験と体験を契機づけるもので、今回のツアーはそれに叶ったものと思われる。また、今回はインフラを中心とし、地域の歴史や文化、観光等をあまり配慮しないツアーになっているため、今後も十分な調査が必要と思われる。

このツアーを実施した民間ツアー会社の意見として、説明者の養成の重要性、ツアーに観光名所を加えること、自転車ツアーや高速道路ウォーキングを入れることを挙げている。また、インフラを活かした新たなツアー造成を考えている。吉野川に架かる橋はそれぞれが当時の最新工法を駆使し、多種多様な形式が存在しており、まさに「橋の博物館」となっていることから、この「橋」を地域観光資源として位置付け、吉野川流域全体が観光の軸となるようブランディングする取組を進めようとしている。

7. コロナ禍での対応

移動の自粛が求められている中、県がツアーを実施することから、コロナ対策を万全に行う必要があった。

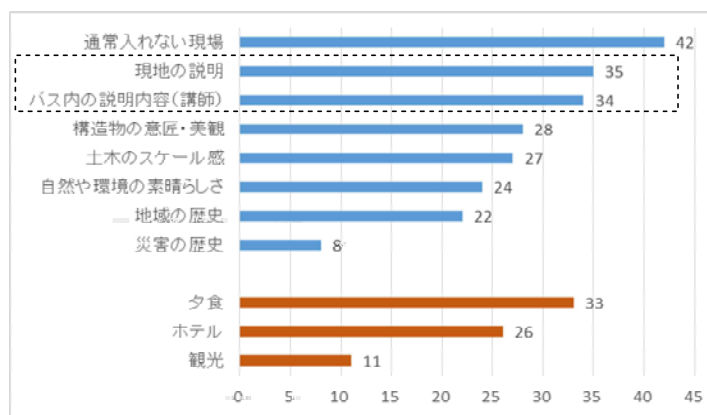
県では「新型コロナウイルス感染拡大防止」と「社会経済活動の引き上げ」の両立を図るため、「とくしまスマートライフ宣言！」を行うほか、積極的に感染拡大防止に取り組む店舗を業界団体が認定した店舗へ配布するステッカーを作成している。（写真－1）

ツアー開催にあたっては、参加者に健康チェックシートの提出と検温測定に協力いただくほか、「ガイドライン」を踏まえた取組をバス、ホテル、食事場所等で細心の注意を払って実施した。アンケートでは参加者全員から「安心して参加できた」との回答を得ているが、2020年10月の実施であり、これからの対策は新しい知見のもとで、よりふさわしいものが求められると思われる。

8. 今後の対策（まとめ）

今回のインフラツーリズムを分析した結果、一般の方々に土木を理解してもらうためには、インフラが「初めての体験」、「通常入れない場所」等がポイントであることが明らかになった。またこれらを引き出し、土木を理解して頂くためには、興味を持たせる説明者の養成が重要であることが分かった。この結果を活かすべく、ツアーのブラッシュアップとインフラの県民へのPRのあり方を検討すべきであると再認識する次第である。

図－1 ツアーの印象に残ったところ



写真－1 コロナ対策（ホテル）

